

アカアシシギ *Tringa totanus* (Linnaeus)

【選定理由】

国内では比較的数の少ないシギであり、県内にも数の少ない旅鳥として飛来し、希に越冬する。比較的秋の渡りで観察例が多く、飛来する環境は伊勢・三河湾に面する河口、その周辺の干拓地や埋立地の水辺であるが、近年は干拓地や埋立地の中から淡水や汽水の湿地環境が消失している。

【形態】

全長 27～29cm、翼開長 59～66cm。夏羽は、顔、頸、胸にかけて暗褐色で明瞭な縦斑が密にあり上面は暗褐色、眉斑は不明瞭で目の周辺に白い縁取りがあり、嘴の基部と脚は鮮赤色。冬羽は、頭から上面および胸が灰褐色で、顔や頸などの縦斑は目立たない。幼羽は、背や雨覆の羽縁が黄褐色、眉斑は長めで目の後でも明瞭、嘴の基部と脚は橙赤色。次列風切と初列風切の一部が白色で、飛翔時は太い白帯に見える。上背と腰が白く、尾は白地に暗褐色の横斑がある。



愛知県刈谷市, 2015年11月1日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

春秋の渡りで伊勢・三河湾沿岸の河口や干拓地、埋立地などに飛来し、越冬例もある。

【国内の分布】

北海道東部で少数が繁殖し、春秋の渡りで全国に飛来するが、沖縄では普通に越冬する。

【世界の分布】

ヨーロッパ東部、中央アジア、中国東北部で繁殖し、ヨーロッパ沿岸部、アフリカ、中東、インド、東南アジアで越冬する。6亜種に分けられる。

【生息地の環境／生態的特性】

干潟、干拓地の水田や水路、埋立地の水たまりなどに生息する。春の渡りは4～5月頃で、秋の渡りは8～10月である。通常1～数羽で生息し、湿地で昆虫、巻貝、カニ、ゴカイなどを食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

主な飛来地は、庄内川河口、境川河口、矢作川河口周辺、一色干潟周辺、汐川干潟周辺、伊川津干潟周辺などである。春は飛来しない年も多く、近年の飛来は全て単独である。秋は1～5羽の群れでみられるが、ほぼ毎年のように飛来する場所は限られている。減少の要因は生息環境の消失で、県内の埋立地には湿地の環境が全てなくなっており、干拓地の水田は隔年転作による乾燥化、池沼や湿地は太陽光パネルの設置などでシギやチドリが生息できる環境は激減している。

【保全上の留意点】

干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要である。また、シギ・チドリ類が多く生息していた地域では、水田の一部を借り受けて休耕田とするか、水田の一部の転作作物を麦・大豆でなく飼料米等にするこで、毎年水田の環境継続されるようにすることが必要である。また、水田の一部を冬期湛水することで、水棲生物や土壌生物の生息環境を保全することも大切である。

【特記事項】

国内でアカアシシギの越冬は沖縄と九州に多く、県内でも2013年の冬から2017年の冬まで最大5羽が毎年境川河口周辺で越冬しているが、地球温暖化の影響であるのかどうかは不明である。

【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.122. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)